

1. 発現する効果の評価指標

- (1)地域公共交通の利用者数増加
- (2)なとりん号の収支改善
- (3)市北西部の移動を支える広域幹線の維持
- (4)来訪者数の増加

【R6末時点の指標達成状況】 ◎・・・目標値以上 ○・・・現状値以上 △・・・現状値未満

効果	指標名	単位	参考値(R1)	現状値(R3)	参考値(R4)	R5	R6	R7	達成状況	目標値(R9)	実施状況(令和7年度末の状況)	課題及び今後の予定等(令和8年5月時点)
(1)	なとりん号の利用者数 (デマンド交通利用者数も含む)	万人／年	46.5	40.5	41.7	50.3 (うちデマンド0.8)	58.0 (うちデマンド2.1)	61.0 (うちデマンド2.1)	◎	46.0	地域公共交通会議の資料を基に、広報、HPを活用し各路線の利用実績を公表し、定期的に利用促進を図った。 また、要望に基づき、乗車実績数などを調査・分析の上、なとりんくるの指定乗降場所の新設(名取メディカルモール、あいのもりクリニック、ウジェスーパ―美田園店)及び移設(増田西公民館前、名取中央クリニック)を行った。	市HP等を活用し、公共交通の利用状況を可視化した路線図やグラフ等の視覚的データを定期的に発信することで、市民の関心を高め、利用低迷路線への乗車を促す。同時に、市民や交通事業者等から寄せられる要望・移動ニーズを集約し、減便や路線の廃止・再編を含めた検討を行い、効率的かつ持続可能な公共交通ネットワークへの最適化を図る。
(2)	なとりん号の収支率 (デマンド交通利用者数も含む)	%	38.3	32.4	32.9	32.0	32.0	34.3	△	35.0	デマンド交通「なとりんくる」に見える化を導入し、予約枠の混雑状況や他の利用者の移動経路が把握できるようにすることで、利用者の利便性向上を図った。 また、2周年キャンペーンとして、共通回数券の購入者に限定グッズをプレゼントすることで、利用促進を図った。	ウェブやアプリによる「見える化」の恩恵を受けにくい高齢者層等に対し、広報を活用したアナログな情報発信(定期的な利用実績グラフの掲載など)を並行して継続する。 また、収支改善に向けた取組の一環として、乗合バスにおける障害者割引について、適正な受益者負担の観点から調査・研究し、今後の施策方針を策定する。
(3)	宮城交通の市内運行路線の市内の利用者数	万人／年		27.2	32.4	34.8	34.1	32.6		経営の健全化	【宮城交通】 令和7年4月・10月にダイヤ改正を実施。利用実態に合わせた改正により利便性向上を図った。 仙台南営業所(高館熊野堂)に、仙台圏では初となる大型EV車両を2両導入、脱炭素社会の実現に向けた取組を強化。ディーゼルノンストップ新車も1両導入し車両更新を進めている。 また、東北初となる遅延証明のウェブ発行システムを導入し、降車時間の短縮と利便性向上を図った。 引き続き全車ICカードシステム搭載、ビッグデータ分析によるダイヤ改善、バスロケーションシステム(どこバス仙台)運用、MaaS参画(デジタルチケット)、新紙幣・新硬貨対応、環境定期券制度、各種交通安全運動への取組み、各種先進安全技術の導入、健康経営、ESG経営等に取り組んでいる。	【宮城交通】 運転士不足が深刻化、今後も減便トレンドは避けられない。需要のある時間帯であってもダイヤ編成の見直しを進めざるを得ない。
(3)	宮城交通の市内運行路線の本市外も含めた路線全体の利用者数	万人／年		99.1	112.2	120.2	120.3	117.0			【名取市】 令和7年度は、「ゆりが丘まちづくり会議(土地利用・交通分科会)」を2回実施。交通分野に関する取組について、より専門的な検討を行った。	【名取市】 宮城交通が運行する高館熊野堂地区の面整備に向け、関係機関と連携し、引き続き区画整理事業の促進を図る。 また、引き続き、市内小学校を対象に、バスの乗り方教室を実施し、モビリティ・マネジメントの観点での取組の推進に努めていく。 ゆりが丘地区のまちづくり協議会を継続し、公共交通も含めたまちづくりについて、住民主体による検討の促進を図る。
(3)	宮城交通の市内運行路線の全体収支率	%		67.3	74.8	78.3	81.7	98.4			【宮城交通】 引き続き、尚絅学院大線(西中田経由)の一部運行を子会社(株式会社ミヤコーバス)へ委託し、経費の削減を図っている。 令和7年3月の運賃改定により、利用減も収支改善が図られた。	【宮城交通】 7年度は運賃改定効果により改善したものの、運転士不足が深刻。物価高騰に加え、採用強化を図るべく運転士の待遇改善(賃上げ等)を進めることにより、経費の増大と収支の悪化が見込まれる。市と連携のうえ対処したい。
											【名取市】 令和8年2月に宮城交通と意見交換を実施し、課題の共有を図った。	【名取市】 引き続き、宮城交通との情報共有を図りつつ、支援の可能性について検討する。
(4)	観光入込客数	万人／年	120	127.9	145.6	152.7	159.5	174.0	◎	136.0	夏まつりの来場者数増加のほか、なとりぱーくの開業などにより、令和6年より増加となった。	今後も観光物産協会や各観光施設と連携し、観光誘客に取り組んでいく。
(4)	なとりん号 閑上線利用者数	人／日	108	115	122	198	226	228	◎	122	交通需要の可視化を目的に利用状況データを公開し、数値目標の達成に向け利用促進を図った。	引き続き利用状況の可視化を行うとともに、利用者への働きかけを通じて、利用促進に努める。

○名取市地域公共交通計画 進捗状況一覧

関連する評価指標

【R6末時点の指標達成状況】 ◎・・・目標値以上 ○・・・現状値以上 △・・・現状値未満

方針	施策	事業NO	指標名	単位	参考値(R1)	現状値(R3)	R5	R6	R7	達成状況 (進捗率)	目標値(R9)	実施状況(令和7年度末の状況)	課題及び今後の予定等(令和8年5月時点)
1 多様な交通モードの連携・協力による利用しやすい交通ネットワークの構築に関する事業	1 なとりん号の再編	1-1	公共交通による人口カバー率	%		87.4	100	100	100	◎	100	既設の指定乗降場所から一定距離(500m程度)離れた病院や商業施設について、複数の要望が寄せられたことから、なとりんくるの指定乗降場所の新設(2か所)及移設(3か所)を行った。	今後も利用実績や遅延状況のデータ分析を継続するとともに、ご意見・ご要望を把握し、路線の維持・安定運行を図る。
		1-1	なとりん号の収支率 (デマンド交通利用者数も含む)	%	38.3	40.5	32.0	32.0	34.3	△	46.0	周年事業を実施し、共通回数券3000円分を購入した方に、普及啓発グッズの配布を行った。 また、収支改善の一環として、障害者割引対象者のうち、市外在住者の車内調査を実施し、適正な負担割合について検討を行った。	前年度同様に、周年キャンペーンを実施する。 収支改善の一環として、障がい者割引の負担割合の適正化に向け、他自治体の事例を調査・分析し、その結果を踏まえて今後の交通施策方針を策定する。
		1-1 (1-2) (5-1)	なとりん号利用者数 (デマンド交通利用者数も含む)	%	46.5	32.4	50.3 (うちデマンド0.8)	58.0 (うちデマンド2.1)	61.0 (うちデマンド2.1)	◎	35.0	「なとりんくる」予約状況見える化システム改良により、予約空き状況が閲覧可能となった。予約人数、乗車時間、出発地点と発着地点の移動情報が見えるようになり、乗合率および車両稼働率、予約システムの利便性向上に努めた。	市HP等で利用状況を視覚的に公開して市民の関心を高め、利用低迷路線の乗車を促進する。同時に、市民や事業者のニーズを踏まえて減便や路線の廃止・再編を検討する。
	2 交通結節機能の強化	2-1	交通結節点での乗降客数 (名取駅前・名取駅西口)※平日	人/日		964	1016	1,132	1,017	○	1,100	なとりん号全体の利用者は増加傾向にあるが、名取駅周辺(駅前・駅西口)においては約100名の減少が見られた。	鉄道利用とコミュニティバスとの円滑な接続を促進するため、鉄道会社と連携した利用促進策の検討を行う。
		2-2	バス停の整備件数	件		0	0	0	0	△	1	利用者からバス停(モビリティポート)に関する要望がないことから、設置には至っていない。	今後も引き続き要望や意向を確認しながら、必要に応じて検討していく。
		2-3	対象駐車場の利用件数	台/年	32	41	57	55	47	○	70	仙台空港鉄道と情報共有を行いながら、名取市HP及び都市計画課窓口でのチラシにて、市民等への情報案内を継続中。年々微増で推移してきた利用台数がR7末時点で減少となっている。	名取市HP案内情報の更新、都市計画課窓口でのチラシ設置の他、仙台空港鉄道・イオンモール名取と、状況や利便性増進について意見交換を行い、サービスについての周知を強化する。
	3 の導入 M a a s	3-1	事業者意見交換会の実施回数	回/年		0	2	2	1	○	2	仙台市と意見交換を実施し、公共交通の利用促進や地域連携の観点で情報交換を行った。	更なる利便性向上のため、交通・通信事業者等との協議を継続し、デマンド交通やバスロケ等の連携による市民サービスのさらなる拡充を目指し、検討を重ねる。
	4 観光と地域公共交通の連携	4-1	観光と連携したツアーの企画件数	件		0	0	3	4	◎	4	地域魅力向上事業の中で「名取市歴史・文化ツアー」を造成し、国外観光客向けの貸切ハイヤーツアー及び国内観光客向けバスツアーの計3回実施した。また台湾における観光・産業交流促進事業において、台湾をターゲットとした観光コンテンツ開発の為、モニターツアー等を実施した。	引き続き新規の商品開発に取り組むと共に過去に実施したツアーの恒常的な商品化に取り組む。
		4-1 (4-2)	名取市内の観光入込客数	万人/年	120	127.9	152.7	159.5	173.6	◎	136.0	夏まつりの来場者数増加のほか、なとりぱーくの開業などにより、令和6年より増加となった。	今後も観光物産協会や各観光施設と連携し、観光誘客に取り組んでいく。
		4-2	アクセス手段となる公共交通利用者数(関上線利用者数)	人/日	108	115	198	226	228	◎	122	名取市HPで各路線の利用状況を公表し、利用を促した。	引き続き、広報やHPで各路線の利用状況を公表し、仙台空港からの利用者数の変動を調査・分析し、利用促進を図る。

方針	施策	事業NO	指標名	単位	参考値(R1)	現状値(R3)	R5	R6	R7	達成状況 (進捗率)	目標値(R9)	実施状況(令和7年度末の状況)	課題及び今後の予定等(令和8年5月時点)
2 多様な交通モードの連携・協力による利用しやすい交通ネットワークの構築に関する事業	5 地域公共交通の維持・確保	5-1	宮城交通対象路線の名取市内の乗降客数			27.2	34.8	34.1	32.6		経営の健全化	【宮城交通】 令和7年4月・10月にダイヤ改正を実施。利用実態に合わせた改正により利便性向上を図った。 仙台南営業所(高館熊野堂)に、仙台圏では初となる大型EV車両を2両導入、脱炭素社会の実現に向けた取組みを強化。ディーゼルノンステップ新車も1両導入し車両更新を進めている。 また、東北初となる遅延証明のウェブ発行システムを導入し、降車時間の短縮と利便性向上を図った。 引き続き全車ICカードシステム搭載、ビッグデータ分析によるダイヤ改善、バスロケーションシステム(どこバス仙台)運用、MaaS参画(デジタルチケット)、新紙幣・新硬貨対応、環境定期券制度、各種交通安全運動への取組み、各種先進安全技術の導入、健康経営、ESG経営等に取り組んでいる。	【宮城交通】 運転士不足が深刻化、今後も減便トレンドは避けられない。需要のある時間帯であってもダイヤ編成の見直しを進めざるを得ない。 【名取市】 宮城交通が運行する高館熊野堂地区の面整備に向け、関係機関と連携し、引き続き区画整理事業を進めていく。 また、引き続き、市内小学校を対象に、バスの乗り方教室を実施し、モビリティ・マネジメントの観点での取組の推進に努めていく。 ゆりが丘地区においてもまちづくり会議を継続し、公共交通も含めたまちづくりについて、住民主体による検討の促進を図る。
		5-1	宮城交通市内運行路線の全体利用者数			99.1	120	120.3	117.3		経営の健全化	【名取市】 令和7年度は、「ゆりが丘まちづくり会議(土地利用・交通分科会)」を2回実施。交通分野に関する取組みについて、より専門的に分科会の中で検討した。	
		5-2	移動需要を喚起する取組件数	件 年		0	1	3	3	◎	2	ブルーツーリズム推進支援事業のナイトコンテンツ実施に合わせ、なとりん号が運行していない時間帯でかわまちてらす閣上から名取駅を結ぶなとりん号の貸切運行を4回実施した。 また、なとり夏まつり開催日は仙台空港アクセス線の利用が増えるため、仙台空港鉄道(株)と連携し、車両の増結を行った。 名取秋まつりにおいては、なとりんくる利用登録ブースを設け、利用登録の促進を図った。	引き続きイベント開催時等には移動需要喚起のための取組を行うとともに、平時の普及啓発にも努め目標値達成を図る。
		5-3	本協議会等を通じた意見交換回数	件 年		0	2	2	2	◎	2	仙台市名取市広域行政協議会では、主に沿岸部の観光振興の観点から、両市を周遊する観光ルートや交通移動のあり方などについて意見交換を行った。	6月に仙台市名取市広域行政協議会を開催予定。引き続き、沿岸部の回遊手段の整備に関し、各自治体の取組等の情報共有を行い、連携を図っていく。
	6 輸送資源への総動員への備	6-1	取組団体との意見交換回数	件 年		0	0	0	0	△	2	山手団地や閑上地区等で運行している地元スーパーマーケットのお買い物バスが、継続運行しており、買い物困難者の移動確保に繋がっている。 また、市内別事業者が実施している約50か所の停留所における、食料品や日用品を販売する移動販売車の運行に対して支援を行った。	市からの支援は終了するものの、お買い物バスおよび移動販売車が運行する予定で、引き続き事業者との情報共有や事業周知の支援に取り組む。
		6-1	他都市事例の調査・研究件数	件		0	0	0	0	△	5		
	7 貨客混載の検討	7-1	検討に向けた意見交換回数	回		0	1	1	1	○	5	運行事業者との定例打合せにおいて可否について検討を行ったが、なとりん号・なとりんくるとも、運行に余力がないため困難な現状であった。	今後も引き続き打合せの中で現状を確認し、需要を見ながら検討していく。

方針	施策	事業NO	指標名	単位	参考値(R1)	現状値(R3)	R5	R6	R7	達成状況 (進捗率)	目標値(R9)	実施状況(令和7年度末の状況)	課題及び今後の予定等(令和8年5月時点)
3 未来につながる地域公共交通の利用促進	8 モビリティ・マネジメントの実施	8-1	学校モビリティ・マネジメント実施回数	件 年		0	2	2	2	○	3	下増田小学校で、特別支援学級の児童を対象に仙台市科学館の見学に併せて、電車の乗り方の学習を実施。切符の買い方、改札の使い方、ホームでの待ち方、椅子の座り方など、ルールやマナーについての学習を行った。 また、みどり台中学校では、市作成の「なとりん号乗り方動画」でバスの乗り方を指導するとともに、学校HPに掲載している。	登下校の際にスクールバスやなとりん号を利用しており、乗り方や待ち方が課題となっている。バスの乗り方については、交通安全教室で公德心を養うとともに、全校での集会や放送による集会などの機会に随時指導してもらう。
		8-2	住民モビリティ・マネジメント実施回数	件 年		0	2	1	1	○	2	増田西公民館にて、交通ガイドブック、2周年チラシを用いて、なとりん号・なとりんくるの概要・利用方法・予約方法等を説明した。併せて、なとりんくるの利用登録申請書を持参し、登録を促した。	従来の出前講座に限定せず、地域の小規模な集まりや寄り合いの場にも積極的に出向き、「なとりん号」および「なとりんくる」の利用・予約方法に関する説明会を実施する。
		8-3	エコ通勤認証事業者数	件	0	0	1	1	1	○	5	令和5、6年度に引き続き令和7年4月～令和8年3月(令和7年7月を除く)に、市職員を対象として公共交通チャレンジデーを実施した。 毎月の給与支給日をチャレンジデーに設定し、公共交通機関を利用した通勤を促進した。令和7年度から時差出勤制度を導入したことで、通勤時間帯に適した便がないことや、乗り継ぎに時間要するといった課題の一部が解消された。 また、HPを通じて市内事業所に対し認定制度の周知を図った。	アンケートの採取方法を変更し、参加率は39%と前年度と比較し12%増加した。 アンケートの意見では、昨年度に引き続きインセンティブ付与に関する意見があり、市としてどのような対策を行うことができるのか検討し、公共交通利用促進に努める。 また、市内事業者に対して、協議会の場などをおして周知することに努める。
	9 環境に配慮した公共交通の	9-1	他都市事例の調査・研究件数	件		0	0	0	3	○	5	・民間主催の坂出市のセミナーにオンラインで参加し、概要などを聴取 ・モビリティ人材育成事業へ参加し、なとりんくるの概要、課題について説明を行った ・民間主催の「未来まちづくりフォーラム」に参加し、なとりん号・なとりんくるについて、3者での協働による再編・運行に関する取り組み事例について講義を行った	引き続き、セミナーや意見交換会、協議会等に参加し、先進的な取組を調査し、機会を捉えて他自治体からの聞き取り等により調査する。